

## Unit Questionとは何か？

---

**Unit Questionとは、**

ある単元の枠組みを与える広がりのある、  
多面的な質問である。

**Unit Questionは、**

生徒が単元の本質に迫ることを  
導くべきものである。

**Unit  
Question**

# MYPの学習評価の方法

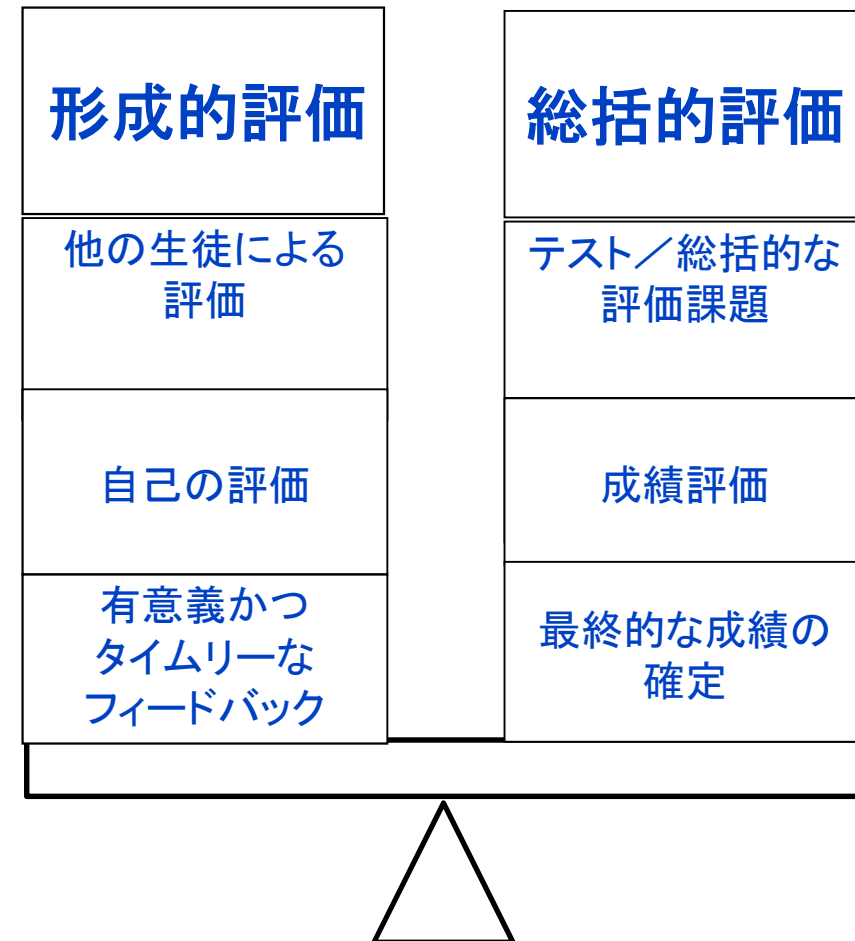
- 評価規準(評価の観点)

## 数学

- 1 知識と理解(8)
- 2 パターンの探究(8)
- 3 数学におけるコミュニケーション(6)
- 4 数学における振り返り(6)

# MYPの評価

Criterion referenced assessment  
評価規準に準拠した評価  
目標に準拠した評価



## MYPの評価

公立中学校	
評価の観点の数	4～5
評価の観点ごとの成績	ABC
テストの満点	100点
学年末の教科目の成績	5段階(5・4・3・2・1)

TGUSS	
評価の観点の数	3～6
評価の観点ごとの成績	満点は科目によって異なる(6～16)
テストなどの評価課題の満点	観点ごとの満点
学期末の教科目の成績	7段階(7・6・5・4・3・2・1)

# MYP7段階成績説明(評価の目安)

評価	評価の目安
Grade 1	目標の <b>最低限の達成度</b> 。
Grade 2	全ての目標の <b>大変限定的な達成度</b> 。 生徒は必要とされている知識とスキルを理解するのが困難であり、教師の支援があつたとしても、それらの知識とスキルを通常の状態において適用することが出来ない。
Grade 3	多くの目標の <b>限定的な達成度</b> 、またはいくつかの領域における明らかな困難。 生徒は必要とされている知識とスキルに関する限定的な理解しか示さず、支援なしにはそれらの知識とスキルを完全に適用出来ない。
Grade 4	生徒は必要とされている知識とスキルに関する <b>全般的に良好な理解</b> を示しており、 <b>通常の状態</b> において、その能力を効果的に適用することが出来る。 生徒の分析、統合、評価のスキルの足跡が時折見て取れる。
Grade 5	生徒は必要とされている知識とスキルに関する <b>一貫して緻密な理解</b> を示しており、 <b>様々な状況</b> においてその能力を <b>適用することが出来る</b> 。 生徒の適切な場面における分析、統合、評価のスキルの足跡を概ね見てとれ、創造力と洞察力を <b>垣間見る</b> ことが出来る。
Grade 6	生徒は必要とされている知識とスキルに関する <b>一貫して緻密な理解</b> を示しており、 <b>幅広い様々な状況</b> においてその能力を <b>適用することが出来る</b> 。 生徒の適切な場面における分析、統合、評価のスキルの足跡を一貫して見てとれる。 生徒は創造力と洞察力を <b>概ね発揮する</b> ことが出来る。
Grade 7	生徒は必要とされている知識とスキルに関する <b>一貫して緻密な理解</b> を示しており、 <b>幅広い様々な状況</b> においてその能力を <b>ほぼ完璧に適用することが出来る</b> 。 生徒の適切な場面における分析、統合、評価のスキルの足跡を一貫して見てとれる。 生徒は一貫して創造力と洞察力を <b>発揮し、常に質の高い結果(課題、作品)を出している</b> 。

## MYPの評価

---

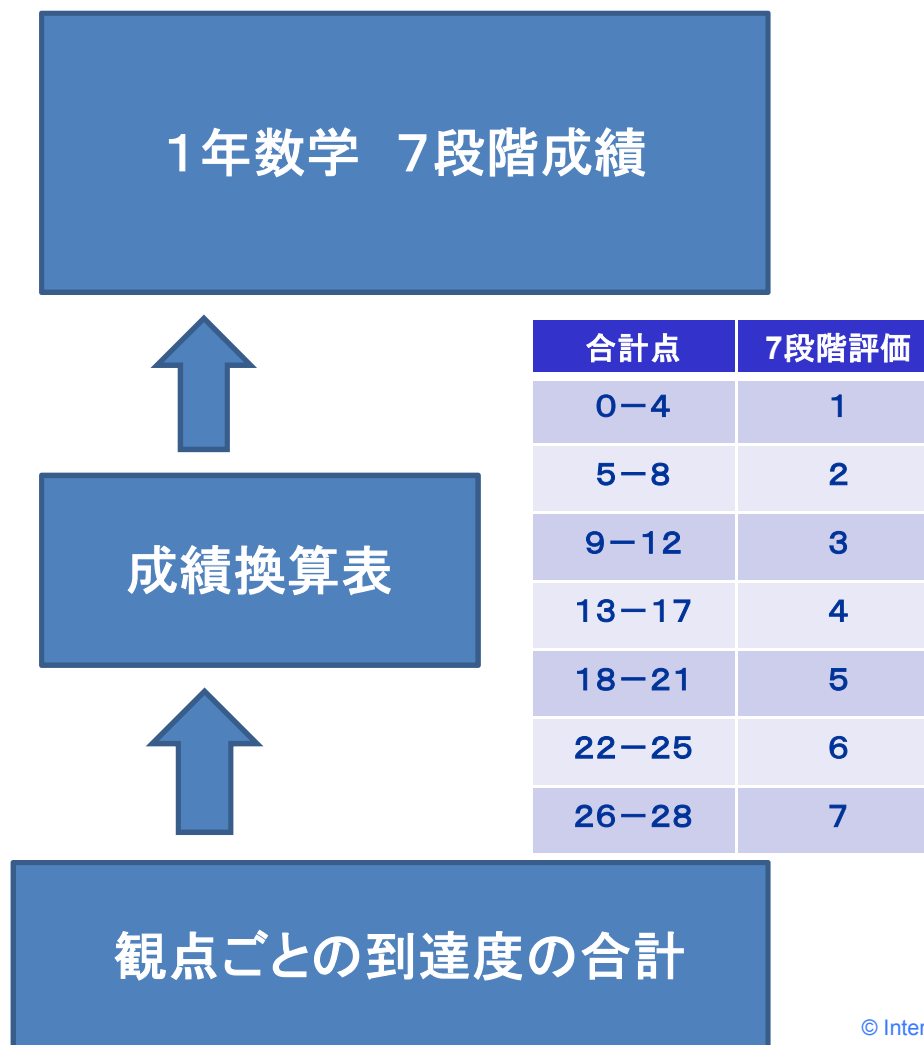
- 教科ガイドにMYP最終学年の目標が明記
- 目標は評価規準(評価の観点)に直結
- 最終学年より下の学年の目標は  
学校ごとに学校の実情に合わせて設定する

入学時に生徒・保護者に冊子を配布

- 1) 評価観点と満点一覧
- 2) 7段階評価の目安
- 3) 1年から4年の各教科各観点ごとの評価の目安

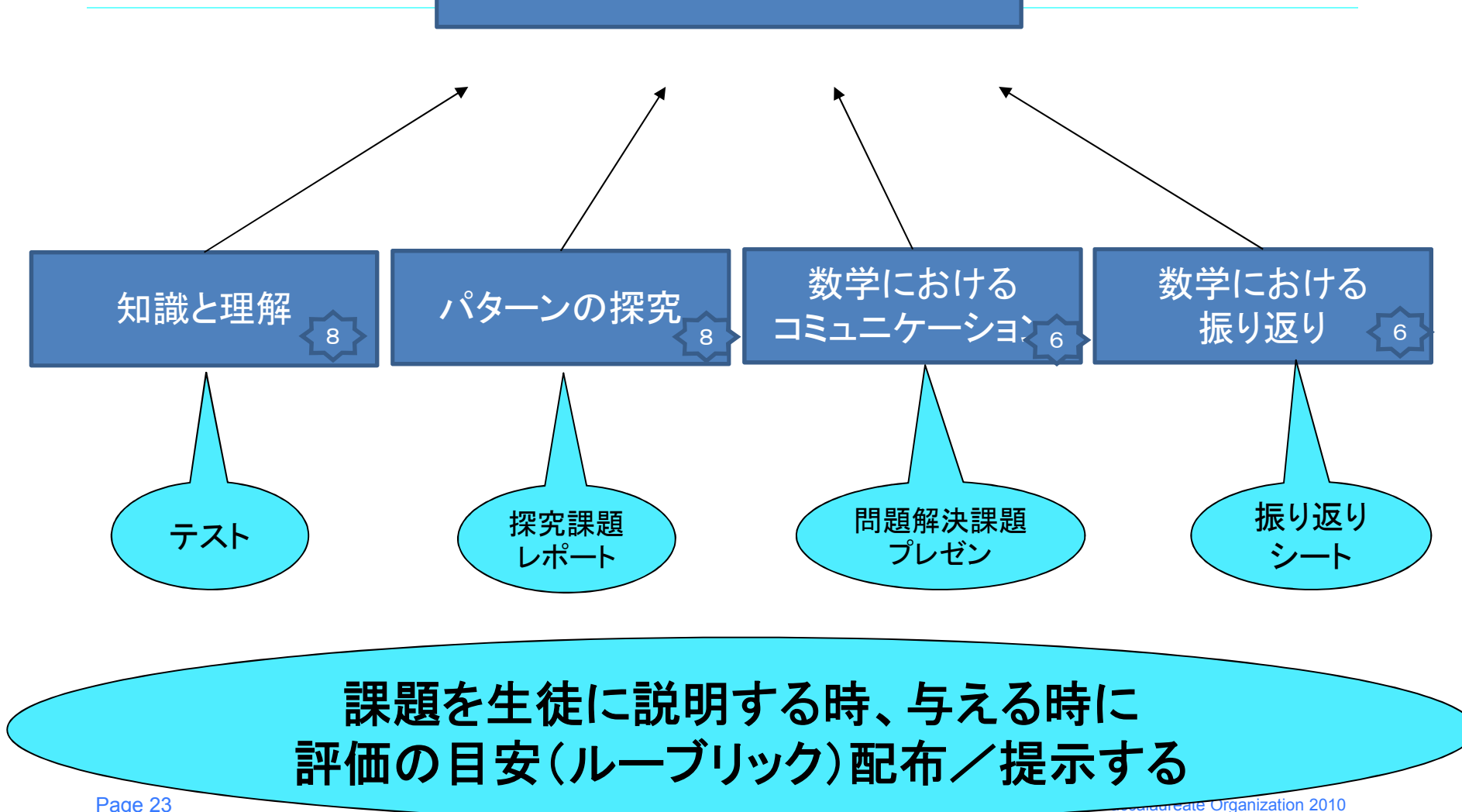
数学				
規準 A 知識と理解				
	ISS 1	ISS 2	ISS 3	ISS 4
0	以下の説明で記述されるいずれの基準にも達しない。	以下の説明で記述されるいずれの基準にも達しない。	以下の説明で記述されるいずれの基準にも達しない。	以下の説明で記述されるいずれの基準にも達しない。
1 - 2	馴染みのある文脈で、簡単な問題解決をする際に演繹的に推論しようとする	馴染みのある文脈で、簡単な問題解決をする際に演繹的な推論しようとする	馴染みのある文脈で、簡単な問題解決をする際に演繹的な推論しようとする	馴染みのある文脈で、簡単な問題解決をする際に演繹的な推論しようとする
3 - 4	馴染みのある文脈で、とても簡単な問題解決をする際に演繹的な推論が出来ることがある	馴染みのある文脈で、簡単な問題解決をする際に演繹的な推論が出来ることがある	馴染みのある文脈で、簡単な問題解決をする際に適切な演繹的な推論が出来ることがある	馴染みのある文脈で、簡単なあるいは多少複雑な問題解決をする際に適切な演繹的な推論が出来ることがある
5 - 6	馴染みのある文脈で、多少複雑な問題解決をする際に演繹的な推論が概ね出来る	様々な馴染みのある文脈で、多少複雑な問題解決をする際に演繹的な推論が概ね出来る	様々な馴染みのある文脈で、多少複雑な問題解決をする際に適切な演繹的な推論が概ね出来る	様々な馴染みのある文脈で、挑戦しがいのある問題解決をする際に適切な演繹的な推論が概ね出来る
7 - 8	馴染みのある文脈で、多少複雑な問題解決をする際に適切な演繹的な推論が概ね出来る	様々な馴染みのある文脈で、多少複雑な問題解決をする際に適切な演繹的な推論が概ね出来る	様々な馴染みのある文脈で、挑戦しがいのある問題解決をする際に一貫して適切な演繹的な推論が概ね出来る	馴染みのない状況を含む、様々な文脈で、挑戦しがいのある問題解決をする際に一貫して適切な演繹的な推論が出来る

## MYP 7段階評価





## 観点ごとの到達度の合計



## 2012 数学 4β 探究発展課題

実施日：平成24年7月2日（月）2校時

解答時間：50分（課題解答40分（課題・ルーブリック確認含む）、振り返り10分）

使用するもの：筆記用具、電卓、TGUISS 数学3のテキスト、授業ノート

**探究課題** プロ野球の日本シリーズは、野球界最大のイベントなので、その前には様々なメディアで野球評論家がそれぞれ予想を述べる。例えば、“A,B 両方のチームの戦力を比較すると6:4ぐらいである”などの予想が聞かれる。これは、1試合行くとAチームが確率0.6で勝つだろう、Bチームは確率0.4で勝つだろうということの意味している。さらに言い換えると、例えばAチームは100試合対戦するうち60試合ぐらい勝つだろう、とも言える。以降、この確率を勝率と呼ぶことにする。次の問いに答えなさい。

**問1** AチームとBチームが日本シリーズを戦うとする。このときAチームが優勝する確率は、勝率と同じだろうか？調べて考察しなさい。ただしあるチームの勝率がPであるとき、そのチームが優勝する確率はW(P)とし、W(P)を求める一般式も導きなさい。

**問2** 勝率0.6のチームが優勝するとき、そのチームが優勝するまでにどれぐらいの試合数が見込まれるか(期待値)求めなさい。また勝率が0.6より上がれば上がるほど、この優勝に見込まれる試合数はどのように変化するかも理由を含めて予想しなさい。

4年( )組( )番 氏名( )

### 基準 A Knowledge and Understanding

ISS4 Descriptors		確率<探究発展課題>パターンの探究	
0	以下の説明で記述されるいずれの基準にも達しない。	以下の説明で記述されるいずれの基準にも達しない。	
1-2	馴染みのある文脈で、簡単な問題解決をする際に演繹的な推論しようとする	勝率0.6のチームが優勝するときの見込まれる試合数(期待値)を求めようとしている。	
3-4	馴染みのある文脈で、簡単なあるいは多少複雑な問題解決をする際に適切な演繹的な推論が出来ることがある	勝率0.6のチームが優勝するときの見込まれる試合数(期待値)を求めようとしているし、勝率が上がるとそれがどう変化するか予想している。	
5-6	様々な馴染みのある文脈で、挑戦しがいのある問題解決をする際に適切な演繹的な推論が概ね出来る	勝率0.6のチームが優勝するときの見込まれる試合数(期待値)が求められている。	
7-8	馴染みのない状況を含む、様々な文脈で、挑戦しがいのある問題解決をする際に一貫して適切な演繹的な推論が出来る	勝率0.6のチームが優勝するときの見込まれる試合数(期待値)が求められており、勝率が上がるとそれがどう変化するのか正しく予想できている。	

### 基準 B Investigating Patterns

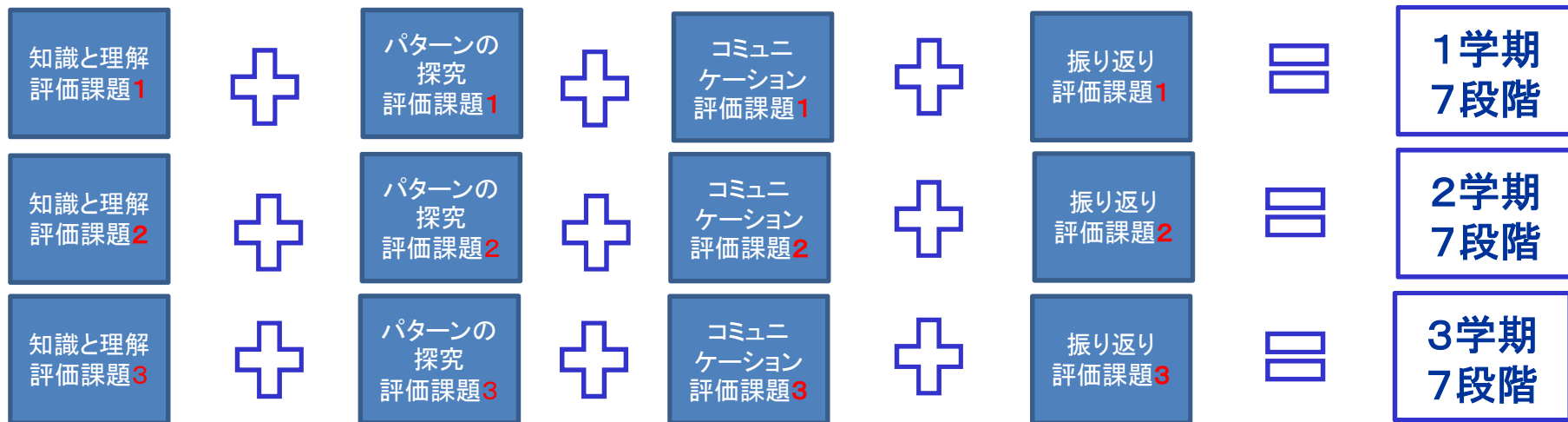
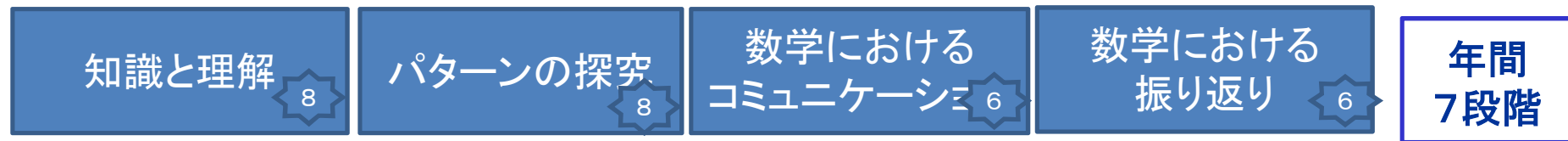
ISS4 Descriptors		確率<探究発展課題>パターンの探究	
0	以下の説明で記述されるいずれの基準にも達しない。	以下の説明で記述されるいずれの基準にも達しない。	
1-2	生徒は指導の下で、簡単なパターンを認識するために数学的な問題解決のテクニックを活用することができる。	優勝する確率を求めようとしている。	
3-4	生徒はパターンを認識するために数学的な問題解決のテクニックを活用することができ、関係性や一般的な法則を示唆することができる。	勝率と優勝する確率を比較し、結論付けようとしている。	
5-6	生徒はパターンを認識するために数学的な問題解決のテクニックを選択して活用することができ、それらの関係性や一般的な法則を述べることで、見出した事柄を踏まえた結論を導くことができる。	場合分けをおおまかにして、勝率と優勝する確率を比較し、結論付けている。	

基準 B Investigating Patterns

ISS4 Descriptors		確率<探究発展課題>パターンの探究	
0	以下の説明で記述されるいずれの基準にも達しない。	以下の説明で記述されるいずれの基準にも達しない。	8
1-2	生徒は指導の下で、簡単なパターンを認識するために数学的な問題解決のテクニックを活用することができる。	優勝する確率を求めようとしている。	
3-4	生徒はパターンを認識するために数学的な問題解決のテクニックを活用することができ、関係性や一般的な法則を示唆することができる。	勝率と優勝する確率を比較し、結論付けようとしている。	
5-6	生徒はパターンを認識するために数学的な問題解決のテクニックを選択して活用することができ、それらの関係性や一般的な法則を述べることができ、見出した事柄を踏まえた結論を導くことができる。	場合分けをおおまかにして、勝率と優勝する確率を比較し、結論付けている。	

**観点B  
4年生  
評価の目安**

**観点B  
4年  
この課題  
評価の目安**



## MYP評価におけるBest-fit

---

生徒氏名	満点	観点A 課題1	観点A 課題2	学期成績
大泉太郎	8	5	6	5
練馬花子	8	1	5	5

## MYPの評価

---

- 教科別目標に沿った評価であり、教員の主観的な判断ではない
- 学校全体で評価に取り組む
- 評価の統一化の時間を確保する
- 自己評価・生徒間評価を通して生涯学習者を育成
- 詳細かつ明確な達成目標の基準を与える